

令和2年度第1回三浦市総合教育会議会議録

○日 時 令和2年11月19日(木) 午後4時00分～午後4時57分

○場 所 三浦市南下浦市民センター 講堂

○次 第

- 1 開 会
- 2 市長あいさつ
- 3 報 告
(1)G I G Aスクール構想の実現に向けて
- 4 閉 会

○出席者(6名)

市 長	吉 田 英 男
教 育 長	及 川 圭 介
教育長職務代理	廣 瀬 牧 実
教 育 委 員	越 智 康 一
教 育 委 員	石 毛 浩 雄
教 育 委 員	石 崎 勇 吾

○説明のために出席した職員

教 育 部 長	君 島 篤	教 育 総 務 課 長	増 井 直 樹
指 導 主 事	荒 井 俊 彦		

○事務局出席者

教育総務課教育総務グループリーダー 長 島 正 紀

○傍 聴 (4名)

○君島教育部長 定刻となりましたので、ただいまより、「令和2年度第1回三浦市総合教育会議」を開会いたします。

私は教育部長の君島でございます。本日の会議の進行を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

本会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第6項により、原則公開となりますので、ご承知おきください。本日の会議開催にあたり傍聴希望者がおられますので入室の許可をいただきたくお願いします。

(傍聴希望者がおり議長(市長)に許可を受け傍聴者が入室)

○君島教育部長 改めまして、会議の主催者であります吉田市長からご挨拶をいただきます。吉田市長お願いいたします。

○吉田市長 皆さん、こんにちは。第1回ということで、教育委員会と市との総合教育会議を開催させていただきます。

色々諸課題がございまして、教育委員会の会議等で報告はさせていただいてはいますが、市として一体で教育行政を進めるうえで必要な会議でございますので、石崎委員は今回初めての総合教育会議ということですが、三浦市として一体の会議ということでもありますので、よろしくお願いいたしますと思います。

今日はGIGAスクール構想の件について報告をいただくようになりますけれども、今コロナ禍において、リモート授業ですとか非常に注目をされていますし、環境の整備が必要な時期でございます。三浦市としても国のご支援をいただいて、具体的にGIGAスクール構想に入れるような措置をさせていただいておりますので、ぜひ活用の仕方については今後教育委員会の中でも色々議論いただくとしたいと思いますけれども、よろしくお願い申し上げたいと思います。

また大きなテーマで、学校教育ビジョンについての各地区での協議会等も開かれておりますので、市民の皆さんの意見をきちんと集約してより良い方向に持っていきたいと思いますので、また教育委員会の会議ですとか、私どもの総合教育会議というのは年に1回とか2回ではあまりに少ないと思いますので、ぜひ活発な意見交換ができるようにしていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

私からは以上でございます。

○君島教育部長 ありがとうございます。

それでは、次第3「報告」に入りますが、議事の進行につきましては地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4において、地方公共団体の長が総合教育会議を設け、また、招集することになっておりますので、市長に議長をお願いいたします。

○吉田市長 それでは会議を進めさせていただきたいと思います。本日の会議は報告事項が1件となっております。

早速ですが、報告事項「G I G Aスクール構想の実現に向けて」になります。
事務局から説明をお願いします。

○荒井指導主事 報告事項「G I G Aスクール構想の実現に向けて」についてご説明いたします。資料右下にページ番号が振ってありますが、若干見えにくい部分もあると思いますがご了承ください。

では、三浦市のICT環境整備の流れということで、1995年にコンピュータ教室が設置され、使用が開始されました。2001年には中学校のPC教室に40台設置、小学校には20台設置。2010年には三浦市小中学校情報化整備事業により、校内LANの環境整備と、児童生徒用のノート型パソコンが、PC教室とは別に導入されました。また同年、地上デジタルテレビ整備事業により学校によって台数は異なりますが大型テレビが導入され活用されています。そして2019年にはみうらっ子応援プロジェクトにより外国語用タブレット端末が導入され、これによってPC教室も合わせて5.2人に1台のコンピュータ整備がなされました。平成30年度の時点で県では6.9人に1台、国は5.4人に1台という報告がされています。

そして、昨年12月にG I G Aスクール構想として打ち出されたことでどう変わるのかということですが、学校における高速大容量のネットワーク環境の整備という部分、そして発表された当初のものではありますが「令和5年度までに全学年の児童生徒一人一人がそれぞれ端末を持ち、十分に活用できる環境の実現を目指す。」これが昨年12月に言われたものでした。

G I G Aスクール構想というものが表に出てきましたが、根本にあるのは教育のICT化に向けた環境整備の5か年計画というものです。2022年度にかけて学習用コンピュータを、現在国は5.4人に1台とお伝えしましたが、3クラスに1クラス分、つまり3人に1台程度の整備を行おうというもの。また超高速インターネット及び無線LANの100%整備。他にも指導者用コンピュータや大型提示装置を整備する。これらが2022年度までに国が目標としている水準です。これに合わせて三浦市も整備計画を立てていたところでありました。この計画のうち赤字で示している部分、つまり学習用コンピュータの整備、超高速インターネット及び無線LANの100%整備、充電保管庫の整備がG I G Aスクール構想というものを打ち出した中で、より早急に整備することとされたというものです。

ハード面としてはICT環境の抜本的充実ということで、1人1台のコンピュータや高速大容量の通信ネットワークを実現する。1人1台になったとしても、通信速度が遅ければなかなか授業が進まないというところで、スピードのあるネットワークを作りたいということです。

また、ソフト面としてはデジタル教科書や教材などデジタルコンテンツの活用を促進する。また、ICTを効果的に活用した学習活動の例を提示するというような支援等を充実させていくということです。

また、指導体制の部分では、日常的にICTを活用できるようになるためには、ICT支援員の体制を整えるということで、先ほどの5か年計画の中にもICT支援員というものはあったのですが、4校に1人程度配置しましょうというのが国の水準になっています。

これらの、特にハード面の整備のために、令和元年度中に資料のとおり補正予算が組まれました。予算の措置要件としては、ICT活用計画や教員スキル向上などのフォローアップ計画の策定、校内LAN整備計画やランニングコストの確保を踏まえたLTE活用計画の策定、先ほどの5か年計画に基づく地方財政措置を活用した「端末3クラスに1クラス分の配備」計画

の策定などが最低限必要になってきます。地方財政措置の前提となっている自治体整備分は責任をもって整備をすることとされています。

つづいて、GIGAスクール構想で何を整備するのかということですが、まず学習者用コンピュータについて、3クラスに1クラス分とされた5か年計画にはない、残りの2クラス分についてGIGAスクール構想で補助がされています。2つ目が超高速インターネット及び無線LANについて、国の補助を活用して市内4校に整備することしました。併せて充電保管庫の整備も行っています。4校としているのは、学校教育ビジョンにおける統廃合の動きが今後どうなっていくか分かりませんが、学校が残っていく段階で残りの小学校にも校内LANの整備を行っていくこととなります。高速化により、通信量がこれまでの10倍程度になります。時間で言うと今まで通信に1分かかっていたものが、6秒で通信できるというものです。

そして三浦市のICT環境整備計画（案）ということで、国の基準に従って三浦市も整備を行っていくということで、学習用コンピュータは来年度から使用できるよう整備を進めています。大型提示装置、電子黒板と呼ばれているものですが、子どもたちに見せながら授業を行っていくというものについては小学校は2クラスに1台程度、中学校は3クラスに2台程度を整備して、活用が十分深まっていく中で残りの分は整備する方向で考えています。

次のページでは市のICT環境の整備についてもう少し細かく記載しています。

①校内LANの環境整備ということで、先ほどもお話ししましたとおり統廃合が決定した後、残りの2校を整備する計画です。未整備の小学校7校については、2010年に整備した校内LAN環境をしばらく活用し、1人1台の端末を使っていこうと考えています。ただ、ケーブルは通っていますが、アクセスポイントがありませんので、そちらを整備して普通教室でも使えるようにしていきます。

②の指導者用タブレットの整備については、昨年度導入させていただいた外国語用タブレット端末を活用するという形で行っていきたいと思います。それでも残った部分については児童生徒の予備機として、壊れた時や転入生等の対応に充てたいと思っています。

③PCルーム用の学習者用コンピュータ整備について、中学校においては学習内容として複数のソフトを使用するなど、より高い技能を身につけるためにタブレット端末の他にPCルームも継続使用するため、整備を進めていきたいと思います。小学校についてはタブレットで十分対応できると考えていますので、PCルームを設置せず対応していきたいと思います。

④の充電保管庫について、タブレットが1人1台となった場合には充電する場所も必要ですので、校内LAN環境を整備する4校については整備と同時に導入し残りの7校については充電できる数の保管庫を整備する予定です。

⑤大型提示装置については、先ほどご説明のとおり整備させていただきました。

⑥ICT支援員の整備については、国の基準として4校に1人程度とありますので、市としては3名の支援員を配置したいと考えています。人材確保に向けては、教育相談員や、新型コロナウイルスの対応等で現在学校現場に入っているスクールサポートスタッフ等に継続して学校に入ってもらえるようなことも視野に入れて、3名の支援員を確保したいと考えています。

⑦統合型支援システムの整備については先ほどほとんど出てきておりませんが、先生方の働き方改革という部分で、児童生徒のデータを一括して、通知表などに活用していくための支援

システムというものがあるんですが、先生方が業務で使用している校務用PCの入れ替えに併せて導入を検討しています。

また、参考資料として掲載しておりますのは、毎年学校に対して情報化の実態調査というものを行っておりますが、各学校から出していただいた数値のまとめになります。

次に、ソフト面、デジタルならではの学びの充実ということで、学習活動用クラウドサービスとしてG Suiteを導入予定です。これはGoogleが提供している教育現場に使っていいですよというサービスがありまして、このサービスを利用できればと考えています。ドキュメント、つまりワードのようなものや、スプレッドシート、これはエクセルのように計算等ができるシート、また本日使用しているパワーポイントのようなスライドというシートもあります。また、クラスルームというものを利用して児童生徒に課題を配布したり、提出してもらいなどのファイルの共有ができたりとか、カレンダーであればスケジュールの調整ができるということで、先生方が会議室の予約をしたり、会議スケジュールを共有することもできます。先ほど学習用コンピュータは昨年度導入したものを活用させていただくとお話しましたが、こちらにも同じものを入れる予定になっていますので、先生と子どもたちも同じように共有できる仕組みになっています。

つづいて教育用クラウドプラットフォームということで、GIGAスクールパックと呼ばれている、4.5万円の補助に合わせて各企業が端末プラスソフトウェアを一定期間使えるようなことをしています。簡易的に入力できるような画面であったり、ドリルコンテンツ、また先ほどG Suiteでもファイル共有機能はありますが、同様にファイル共有できるようなソフトであったり、小テストやアンケート機能がついていたり学習履歴の管理機能ができるといった機能を、半年から1年くらいの一定期間ライセンスが付いているものを導入できますので、それを運用して2年目以降は現場の声を聞きながら導入の検討ができればと考えています。G Suiteでもファイル共有や授業支援など同等の操作ができると考えています。

つづいては電子黒板の導入ということで、小学校は2クラスに1台程度、中学校は3クラスに2台程度導入することになりますが、先生方はそこに映すだけではなくて子どもたちが作ったものを表示させて、そこに書きながら説明ができたりとか、複数の差を比べたりとか、小さい画面にみんな集まってではなく、そういうことを全体で共有して合意形成を図ることができるのではないかとされています。大型モニターを使っているところもありますが、やはり描けるということが重要なと思いますので、電子黒板を導入することになりました。

また、ICTの効果的な活用についてということで、今年の9月に文部科学省から各教科の活用例が出されており、どの教科でも活用できるということが示されています。現場の先生には資料を提供し、情報共有を図っているところです。

つづいて、日常的にICTを活用できる指導体制ということで、ICT支援員のお話もさせていただきましたが、市内の学校での研修ということで、来年4月以降にいきなり1人1台になって、何をすればいいかわからないということになると現場の負担になってしまいますので、現在導入している外国語用のタブレットを利用して、1人1台端末を想定した授業実践を何校かにお願いして、その授業支援を行っている状況になります。また、その実践風景を見に来てもらうなど、先生方の負担を少しでも減らせればと思っています。その中でもG Suiteを活用しながら実践を行ってもらっています。その他電子黒板の実証授業ということで、市内

の3校に行っていますが、それとタブレットとをどういう風に活用しながら授業ができるのかというところを含めて授業実践を現場で行っています。

そしてICT支援員のお話は先ほどさせていただきましたが、人材の確保や、今後学校でどういった支援が要求されるのかというのは導入してみないと分からないので、どういったサポートが必要なのかというのは今後見極めていかなければならないと思います。

最後に情報モラル教育の充実ということで、ただ機械を入れて使えますよということではなく、使い方の部分で、今もやっていないわけではありませんが、日常的に使っていく中で気をつけなければならない部分というのを共有して、1年生の間に行う指導、2年生の間に行う指導など、モデルとなる情報モラルのカリキュラムを作って現場の先生方と共有したいと思っています。資料に記載の表は一部抜粋したものになります。

以上で活用に向けてということで、国が示すハード面、ソフト面、指導体制として市としてはこういうことができるんじゃないか、こういうことをしないとイケないんじゃないかということで報告をさせていただきました。

説明は以上でございます。

○吉田市長　この件についてご質問等ございますか。少し意見交換をさせていただければと思います。

○石毛委員　よろしいでしょうか。G Suiteや、教育用のソフトウェアは当初はライセンス契約料も無料ということですが、その後は契約料がかかってくると思うんですけども、予算上それも含まれているのか、ソフトメーカー等から見積もりが出ているのでしょうか。

○荒井指導主事　G SuiteについてはGoogleからまだ話をいただいておりません。教育用のソフトウェアについては、そちらを使うかどうかも含めてまだ検討しておりませんので、予算要求や見積り徴収などは行っておりません。

○石毛委員　ではこれが良いとなったら使用することも想定には入ってくるということですか。

○荒井指導主事　そうですね。半年から1年間はそれも併用して使っていくということですよ。

○石毛委員　では可能性として、やはり予算については考えなくてはならないことも出てくるということですね。

○越智委員　従来、少し前かもしれませんがIT教育と言っていたと思いますが、今はICT環境と言いますね。もうIT教育とは言わないんでしょうか。ICT環境整備と言いますけれども、ICT教育とは言うんでしょうか。その辺りがどう変化していったら、何を重点に置いて教育環境を整えていくのか。教育環境を整えるということだけで「C」が入ってきたわけではないと思うんですが。ICTとすることで、国は何を重点に置いているのか説明していただければと思います。

○君島教育部長 当初はIT「インフォメーション・テクノロジー」ということで、Windows 95が一つの転換点になっていると思いますが、その後ITが進んでいった中で、当然インフォメーション、つまり情報だけが独り歩きするわけではなく、あくまでもコミュニケーションのためのツールであり、テクノロジーであるよということで、「インフォメーション&コミュニケーション・テクノロジー」ということで世の中が進んできました。

学校教育現場におきましても情報機器の活用は当然ですけれども何のために行うのかと言ったらコミュニケーションをとることも一つの目的であるよと。色々な計算機器を使いこなすことも一つの目的ではありますが、コミュニケーションツールとしての活用も重要であるということによってICTという段階に至っていると理解しております。

○越智委員 もう一つ別のことですが、超高速インターネットのことについてですけれども、5Gと超高速インターネットの整備というのは同じことなんでしょうか。それとも違うことなんでしょうか。

○君島教育部長 5Gというのは、いわゆる携帯電話を中心とした高速大容量・低遅延・多数同時接続の通信環境の確保ということで、一つの規格がございますので、その規格に則ったものが5Gでございます。今回はやわらかく超高速・大容量という言い方をしておりますけれども、先ほどの説明にありましており、従来の10倍の速さを持った通信環境の基盤を整備しようというものでございます。

○越智委員 ということは5Gは使わないというか、それはないということですね。

○君島教育部長 GIGAスクールの中では出てこないということになります。

○越智委員 出てこないんですね。

それから、今のご説明の中の、いわゆるハード面を色々整えていくという中で、超高速インターネットを入れたらどのように活用できて、どういう風に変化するのか。従来も色々やっていますよね。1人1台のタブレットを導入だとか、色々なシステムを入れていく計画だということは理解できたんですけども、もう一つそこに超高速LANを入れたことによって、従来とは違いますよということがよく分からなかったもので、そこをもう一度教えていただければと思います。早くなるとか容量が大きくなるということだけで、教育内容が良くなるのか、学習内容がどう変わるのか、どう活用できるのかというのがよく分からなかったんですけども。もう一度補足をお願いしたいと思います。

○荒井指導主事 超高速ということは通信速度が速くなります。今までは教室で10台とか20台を接続して動画を配信するという時に、20人で一つの動画のデータを取りに行く場合、線が細いところに20人が密集するとそれだけ速度が遅くなってしまいますので、授業の展開としては早く見れる人と遅く見れる人というタイムラグが生じてしまい、進行に影響がありました。これを回線を太くすることによって20人が同時に行ったとしてもタイムラグが少なく、先生方の授

業の進度も影響されにくいということになります。内容が変わるというよりは、時間の使い方が変わるということです。

○越智委員 時間が早くなるということはその分学習が深まったり、良くなるという可能性を秘めているということですね。

○荒井指導主事 今の段階で20人で行っても差があって、一つのコンテンツを見るだけで1時間が終わってしまったという授業もあったんですけども、それが解消されるのではないかと考えています。

○越智委員 あと、AIドリルというのがよく分からないんですが、イメージを教えてください。

○荒井指導主事 CMなどでも目にすることがありますが、AIによって採点をしたり、その子に合った課題が抽出されたりというのがAIドリルです。

○越智委員 それはもう実用化されているのですか。

○荒井指導主事 色々なソフトウェア会社から話を聞いていますと、限定的ながら急速に発展をしている状況で、今は数教科しかないですけども、1年後には複数教科対応できるという話は伺っています。

○越智委員 そうすると評価にも繋げていけるという可能性も秘めているのですか。

○荒井指導主事 評価に使うかどうかは分かりませんが、補足的に子どもたちが使っていくことになるのかなと思います。

○及川教育長 今回の評価についてですが、観点別の評価についてはしやすくなると思います。それぞれの苦手な部分はどこなのかということで、AIがその子に合った問題を選び出して、そのことを学ぶことによってどれだけできるようになったかということで、その子に合った評価がしやすくなると思います。開発途上なので更に使い方は変わってくると思いますが、今はそういう可能性を秘めているのかなと思います。

○吉田市長 他にございますか。

○石崎委員 まずこのGIGAスクール構想で、授業の全てでタブレットを使っていく方向なのか、それとも一つの授業としてタブレットを使う授業を進めていくのか。子どもたちの学習の全部をGIGAスクール構想に含めていくのかということところがまず一つ気になる場所なんですけれども。

○荒井指導主事 資料 22 ページ、23 ページのあたりに文部科学省からの活用例を載せておりますが、毎日触れていくということは必要ではあるんですが、タブレットの授業ではなくて、授業の道具として使っていくというのが基本的な考え方になりますので、この授業の単元の中身であれば使うけれども、この内容だと使えないということも当然出てくると思います。

○石崎委員 では使ったり使わなかったり、両方で進めていくということですね。

それからタブレットのことですけれども、みんな平等に使っていく中で、携帯電話のようにどんどん進化して新しい機種が出たら全員新しくするというようなイメージを持ってしまいうんですけれども、そういうランニングの部分はどうなりますか。

○荒井指導主事 最初の方にお話いたしました、本来は令和 5 年度までに段階的に学年を絞って導入していく予定だったんですけれども、今年度中に全て整備するということです。国の話としては、5 年後には筆記用具と同じような感覚に世の中が変わっているだろうということで、予算的な部分の話は一切出てきていないというのが現状です。ただ、それを家庭に負担させるのかということについては今でも議論が続いており、色々なところから要望も出されていて、国の支援をいただけるように、4 年から 5 年のサイクルで更新をしていかなければいけないと考えています。

○石崎委員 始めはみんな一律で揃えると思いますが、その後家庭の負担になっていって、新しくする子もいれはずっと古いものを使う子もいるような状況だと、授業のスピードについても差が出て、こっちではこれができるけど、こっちではできないという風になっていくのかなというイメージがあるんですけれども、その辺りはしっかり管理して、教育の差が出ないようにする必要があるのかなということが気になります。

もう一つ授業でみんなでタブレットを使用する時に、みんなで配信の中で進めていく時に、機械自体のバグが起きて固まってリセットしたりということがあったら、その回復を待つ間は授業がストップしてしまうのかということも気になります。その辺りのお考えがあれば教えてくださいたいと思います。

○荒井指導主事 先ほども一部お伝えいたしました、昨年度導入した外国語用タブレットの予備が少し出てくるところで対応していくということと、バグに対応して待つというよりも別の端末に変えて入っていく。G Suite はクラウド上なので、アカウントがあれば同じ環境ですぐ復帰ができるので、少しの差は出てしまうと思いますけれども、基本的にはその対応でいきたいと思っています。

また、得意不得意な先生もいらっしゃるかと思いますので、本来 1 校に 1 人 ICT 支援員のような方がいればすぐ対応可能かなと思うんですけれども、やはり人材の確保であったり、そういった面で現状は 4 校に 1 人程度という形ですので、まずは予備機で対応して、だめになったものは支援員の方や情報担当の先生に対応してもらおうという風にしたいと思います。

○石崎委員 最後に、タブレットの管理についてですが、クラウドの中で先生からの宿題であったり次の日の連絡をするにあたって、持って帰るようなイメージが出てくるんですけれども、

紛失とか、落したり壊したりということも想定される中で、その管理は各自で行うのでしょうか。紛失したりした時に授業を受けられなくなってしまうのか、予備があるとは言っても限度があると思うので、どうなのか教えていただければと思います。

○荒井指導主事 現状ではまだ持ち帰りは想定しておらず、充電保管庫に帰る時に入れて、次の日に充電された状態でまた使うということを想定しています。ですので紛失ですとか故障ということは現状では考えていません。持ち帰りが今後想定されるようになれば、例えば保険に加入するとか、保護者から誓約書のようなものをいただいたり、ご家庭の負担にはなってしまうかもしれないですけれども、保護者と学校との間でやりとりを行っていくことになると思います。

1人1台入りますけれども、基本は学校での管理になりますので、個人のものになるわけではなく、学校のを借りて使うという意味合いで考えていますので、先ほども申しましたように何年後かに交換するというのも学校で行っていくことですので、次の日には違う番号の機種を使うかもしれないですし、その辺りの管理は学校で行っていくことになります。

○廣瀬職務代理 今色々説明を聞いていて、ハード面として環境整備を加速させていますけれども、そういったハード面が進んでいっても実際に指導していく状況と一緒に整っていくのかなという心配を感じてしまうところです。教員スキル向上のフォローアップ計画があったりとか、先ほどお話があったサポートするためのソフトウェアなど、一定期間はそれを導入してサポートしていくというようなこともありましたけれども、やはりお話にもあったように得意不得意というものもあると思うんですね。整備されたものを使って指導していく中で、その得意不得意が元で学校やクラスによっての差が生じたりはしないんだろうかという心配などもあります。

そういう中でICT支援員の話があったと思うんですけれども、教育相談員やスクールサポートスタッフの方も視野にということですが、ICT支援員というのは技術の支援をしていくということでもいいのでしょうか。そうすると技術的には高いスキルを持っていないと支援員になっていけないのかなというイメージがあるんですが、その辺りはどうなのでしょう。スキルの高い方が支援員になっていくということですか。

○荒井指導主事 より高い技能をお持ちの方がいればこちらとしてはありがたいと思っておりますが、企業の方に相談しても、なかなか人材の確保というのは難しいだろうと言われております。ICT支援員という資格があって、年に2回の試験があるんですけれども、今年度は1回限りで全国的にも受験者数自体が少ないため、有資格者に限定するとおそらく人は集まってこないだろうと思っています。

ある程度基本的なスキルがなくても、そういうことに興味があって、こちらがこういう時にはこういうことをしてくださいというような研修とか情報共有する場を設けながら、一般的なコンピュータを触った経験があるとか、ある程度の操作ができるとか、そういった人材をまず確保するところからだと思います。

○廣瀬職務代理　では、そういった人材があまり確保できないとなった時には、学校で何か問題が起きて、学校では解決できないとなった場合には市の中でそういった時のためのネットワークを作っておくとか、そのような考えはあるのでしょうか。

○君島教育部長　当然教育委員会の方でもバックアップ体制は取らなくてはならないと考えています。また、市役所全体に目を向ければ、情報の担当セクションもございますので、そういったところのお力を借りるような場面も出てくるかと思いますが、先ほど荒井が申し上げましたとおり、まずはICT支援員になっていただく方には学校の先生をサポートできるレベルまで到達していただく。1日でも早くタブレットに慣れていただければ、その分だけ一步先を進むことになりますので、そういったトレーニングと言いますか、準備も必要だと考えております。

○及川教育長　このGIGAスクール構想につきましては、三浦市にとっては大変追い風な計画で、ICTの環境を一気に進めることができるということで大変なメリットがあると感じています。

ただ、今お話が出てきましたように、これをきちんと活用できるかということについては、やはりこちらも国、県、他の市町などの情報も得ながら考えていかなければならないと思っています。タブレットが1人1台揃ったから、もうそれでOKということではないですね。魔法のツールではないわけですから。それをいかに有効に使うか。まずは人なんだと思います。先生方もタブレットが導入されて、それを上手く授業の中で活用できる状況にあるかということなかなかそうではない。

ですから市には既に情報化研究協議会というものもあって、各学校のICTの担当が集まってそれぞれ情報共有するようなものがありますけれども、そういうものも活用しながら、こういう使い方をすると授業で有効に活用できたよというような事例等を共有しながら、多少苦手な先生もそれを見れば一定程度の有効な使い方ができるような、そんなサポートもしながらまずは一步踏み出してみることが必要ではないかと考えています。

使い方も含めて、先ほども出ましたけれどもその機械がいつまでも使えるわけではないですから、そういう環境を継続的に維持できるような市の体制や対応も必要になってきますので、そういうことも常に考えながら進めたいなど。とにかくタブレットが1人1台揃って、それでOKということではないと常に肝に銘じて学校をサポートしていきたいと思います。

○石毛委員　ネットワーク構築について、一つの学校の中で完結しているか分からないんですけども、初声地区だと超高速インターネットと無線LANが小中それぞれ整備されるということで、初声地区は小中の交流が今進んでいますけれども、ネットワークの構築で何か活用できるのではないかと思うんですが、その辺りは何かお考えがありますか。

○荒井指導主事　小中の連携も含めて活用することは十分可能かなと思いますが、まずは物の活用よりも、何を小中の一つの柱にしていくのかということの一つのツールにもなるかなと思います。

○吉田市長　今の段階ではまだ、とりあえず環境整備を優先して行って、将来的に小中一貫教育を打ち出しているのです、そういった時にきちんと連携ができるような仕組みづくりというのは当然必要になりますね。そういうことを打ち出している以上、このICT教育というのは極めて重要なツールになると思います。

○石毛委員　そうすると全体的なネットワークの構築というのも今後出てくるということですか。

○吉田市長　もちろん正規に小中が連携できるような仕組みづくりになるでしょうね。

○君島教育部長　当然各校のネットワークとして今検討しておりますのは、市全体のサーバを通じて行うものになります。中のネットワークになりますので、より安全性が高いところでの情報連携が現在で言いますと11校でできると考えています。そこからインターネット環境にも出ていくということですので、様々な可能性を秘めていると考えています。

○吉田市長　要するに三浦市として大きなテーブルがあって、そこに各校がアクセスして情報が共有できるという仕組みにしないといけないということですね。

○荒井指導主事　重要なデータに関しては今も教育委員会のサーバにアクセスしてから外に出るような形にはなっています。

○吉田市長　例えば、A小学校でやっている授業が非常に良いという時に、B小学校でも同じようなデータを使って活用したらどうかというようなことが起きた場合に、双方とも三浦市の一つのサーバになっていれば、お互いに情報が共有できるわけです。そういう仕組みにしなければ意味がないですね。

○荒井指導主事　現状もそれはできています。

○吉田市長　それならいいですね。

○及川教育長　共有のフォルダということでは今もあるので、事例などを共有することは今でもできています。

○吉田市長　時間になってきました。これからの時代に即したICT教育を目指して準備をしなければいけないので、他のこともありますのでとても大変ですが、頑張ってもらいたいと思います。

そもそも端末を1人1台買うんですよね。リースではないんです。予算をつける時に、これはおかしいんじゃないかと言ったんです。石崎委員がおっしゃったように5年後には様変わりしていて、果たしてこの機械が使えるのかということもあるわけです。そういった時に、今GIGAスクール構想ということで前倒して対応しましたが、これからお金のある自治体とない

自治体では1年遅らせないと予算措置できないとか、そういうことになりかねないぞという話をしていたんです。

いずれにしても何年かごとに見直しはしないといけないんですが、これはリースに切り替えないと無理かもしれませんね。最初は買うにしても、買った端末はソフトの入れ替えなどできれば他にも活用できるかもしれませんが、機械を揃えるのはやっぱりリースかなと。そうしないとなかなか対応できないかもしれないなと思ってはいますが、そこは教育委員会と市長部局とで連携しながらやっていくようにします。

いずれにしてもリモートも重要ですから、端末を学校で管理するということですが、実際に休校措置になったりした時に、宿題を家でやらなければならないとか、そういうケースもあると思いますから、そういう時の管理の仕方もセキュリティを強くすれば機能が遅くなりますよね。情報の持ち出しという大きな問題が出たりということもまた研究しないといけないし、色々課題はたくさんありますけれども、もうスタートしていますから、万全を尽くして、教育委員の皆さんにもまたご意見をいただいきたいと思います。

他にも総合教育会議としてのテーマはたくさんありますので、時期を見てなるべく総合教育会議として何回か開けるようにしていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。学校教育ビジョン等でも色々ご意見をいただいているものを集約してもらって、これから具体的に入っていく時に市民の皆さんのご意見も集約しないといけませんから、それも併せて教育委員会の方でお願いしたいと思います。

○吉田市長　それでは他になければ、「GIGAスクール構想の実現に向けて」を終了します。
以上で議事は終了いたしました。その他に皆さんから何かございますか。

○吉田市長　ないようでしたら、「その他」を終了します。
以上を持ちまして議事は終了いたします。
それでは、進行を司会に戻させていただきます。

○君島教育部長　ありがとうございました。
本日予定していた内容は全て終了いたしました。
以上を持ちまして本日の総合教育会議を終了いたします。ありがとうございました。
傍聴者の方はご退出ください。

◇ 午後4時57分 閉会 ◇